2012年度
次世代
ワークショップ

企画名：地域の「対外的境界」と「内なる境界」
―東欧と中国語圏をめぐる研究者の対話―

企画責任者：香坂直樹（跡見学園女子大学・兼任講師）
共催：北海道大学スラブ研究センターGCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブユーラシアと世界」
共催：エスニック・マイノリティ(EMS)研究会　／　**後援：**東京外国語大学海外事情研究所

1. EMS研究会のこれまでの活動

- **2010年11月：**発足、エスニック・マイノリティを扱う若手研究者が集う場として活動中。
- 定期的に研究会を開催（2012年9月までに29回開催）（文献講読・研究発表等）
- **2012年1月15日：**第1回ワークショップ『彝（イ）文化と日本文化－現状分析と討論』
- **2012年7月21日：**第2回ワークショップ（於：東方学会）（右写真は会場内の様子⇒）
  『中国語圏のエスニック・マイノリティ－近現代における社会変化の様相』
  →政策概念/現地の人々の行動・思考の枠組み/研究時の作業概念の各次元において「境界」の存在をより意識した研究を継続する必要を確認した。

⇒**2013年1月12日**予定の本ワークショップでも引き続き「境界」を主要テーマに設定する。

2. 本ワークショップの基本構想・問題意識

- 東欧研究者が報告し、中国語圏研究者がコメントする形で、研究地域や分野を越えて意見を交換する。
- 「近代化」や「国民化」に伴う「境界」の再編、ならびに、ネイションやエスニック・マイノリティ諸集団の意図や食い違いに注目する。

↓　↓

3. 「境界」を考える際の３つの視点（各セッションのテーマ）

a.「対外的境界」の形成と再編

→ネイションやエスニック・マイノリティは、政治的・社会的な「境界」（国境、制度、地理的な区分等）をどのように解釈し、どのような意味を与えたのか？

b.「内なる境界」の解消と再構築

→19世紀以降に「近代化」や「国民化」が進展した東欧各地において、それ以前に存在した地域や社会の「境界」はどのように解消され、そして、再構築されたのか？

c.「越境者」の境界意識－自己意識と境界との関係

→「越境者」（移民や亡命者たちも含めて）は、国民国家を相対化する存在と捉えられがちだが、彼らの自己意識は実際に存在していた境界からどのような影響を受けていたのか？

「地域」の外縁部に留まらず、各所に遍在する様々な「境界」が、諸集団に与えた影響について議論する場に